

着任あいさつ

ハイティーンブギ

リハビリテーション科部長 杉山 恵一郎



10月に保養会竹丘病院に参りまして、まだ間もない状態なのですが、自己紹介のつもりで、私の高校時代の事を書こうと思います。

男3人兄弟の長男として育ちましたが、長男としての自覚は持っていなかったのか、高校入学後に仲間達とバンドを組み「将来はミュージシャンで生きていこう」と本気で考えていました。その当時はサザンオールスターズ、ゴダイゴそれにオフコースなどのロックバンドのブームの最中で、数多のアマチュアグループがしのぎを削る時代であり、現実はかなり厳しいものでした。デモテープを真剣に作っても、ほとんど相手にしてもらえず、仲間達は焦燥感に駆られ、次第に夢から現実を見つめはじめようになりました。

バンドを陰で支えてくれていた、とある練習スタジオのオーナーが、ある時仲間達にこう言いました。「夢だけでは、人生乗り切っていけない。けれども夢のない人生は、立ち止まったままなんじゃないの!」それはまるで、どこかで聴いた事があるような、ポップソングの歌詞そのものでは?と当時は受け流していました。

しばらくして、そのオーナーが病に倒れたと知り、暇をもてあましていた仲間達とお見舞いに行くことになったのです。しかし、オーナーは病状が重く、まともな会話もできない状態でした。「退院したら、またスタジオで会おう」そして「君達のようなアマチュアバンドの活躍を支えるのが、僕の夢なんだよ」と、静かに語っていました。仲間達はすでに音楽の夢を諦め、大学進学や就職を考えており、オーナーの気持ちに答える事ができるのか、複雑な心境でした。

受験、卒業、そして浪人生活へと目まぐるしく過ぎるなか、オーナーの訃報を耳にし、私の「ハイティーンブギ」は終わりました。

あれから30年以上経ちましたが、私の夢のひとつはドクターになった事で叶いました。しかし、まだまだ人生は進んでいきます。

「竹丘病院」と出会い、ここでさらなる夢を思い描きながら頑張っていこうと思います。これからも宜しく願いいたします。